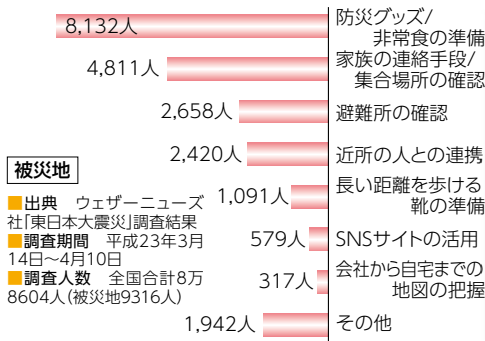


防災特集 東日本大震災から5年 災害に強い暮らし方を

平成23年3月11日、未曾有の被害をもたらした東日本大震災。昨年9月にも台風による大雨被害がありました。

自然の猛威は止めることができず、災害はいつ発生するか分かりません。これからも起こりうる災害の被害を最小限に食い止めるため、過去の経験や教訓をどう生かせるか、改めて考えてみませんか。



ぜひ揃えておかなければいけなかったと思う事は？

大切な防災グッズ・非常食の準備

東日本大震災の被災者へのアンケート結果（上の図）を見ると、日ごろ備えておかなければならなかったと思うことは、「防災グッズ・非常食の準備」が多く、「家族の連絡手段・集合場所の確認」「避難所の確認」が続きます。事前準備が必要と常にいわれている事の重要性が改めて認識されています。

被災地のあの日・あの時

福島県いわき市



1 久之浜町久之浜字東町を海岸防潮堤付近から見る・右(2011.4.10、佐川紘一氏提供) 2 豊間字柳町を「八幡神社」境内から見る(復旧前)(2011.3.27、遠藤一利氏提供) 3 豊間字柳町を「八幡神社」境内から見る(復旧後)(2015.3.3、いわき市撮影)

本市では、東日本大震災で甚大な被害を受けたいわき市の復興のため、職員を派遣しています。平成24年4月～平成25年3月に派遣した上田英夫係長（市街地整備課）と吉山徳夫総括主査（下水道建設課）に話を聞きました。

「心構え」で身を守り 「人と人とのつながり」で復興を

いわき市の被害は、死者461人、福島県全体として原子力発電所事故による被害の印象が強いのと思いますが、津波による被害も大きく、いわき市の建物被害は仙台市に次いで多いといわれています。私たちがいわき市に派遣されたのは震災から1年後。がれきはほとんど片付けられ、建物の基礎だけが残り、さら地状態。小学校も被災し、廃材が積み上げられた校庭を見た時は言葉を失いました。

被災した土地の地権者に対する意向調査業務などに携わる中で、災害発生時の話をたくさん聞くことができました。津波が来たときは、すぐに避難した人と、そうでない人とで、被害状況に違いがあったようです。大切なことは、いつ、何時、災害があっても対応できる心構えをしておくこと。「どうせ災害なんてないよ」と思わず、災害が発生したらすぐに避難できるよう、事前の準備が重要です。



上田係長

吉山総括主査

宇都宮市内でも、災害で石塀が崩れる被害が多くありましたが、住民同士、特に若い人たちが中心となって片付けをしている様子が多く見られました。人と人とのつながりが復興への大きな力になるのではないのでしょうか。

いわき市を訪ねよう

被災から5年。復興が着実に進み、今では震災前のにぎわいを取り戻しつつあります。

そんないわき市には「スパリゾート・ハワイアンズ」など、楽しい場所やおいしい食べ物がたくさんあります。詳しくは、いわき市観光情報サイトホームページ<http://kankou-iwaki.or.jp/>をご覧ください。



▲スパリゾート・ハワイアンズ フラガール

いわき市をはじめ、東北の被災地を訪ね、復興を応援しませんか。

◎東日本大震災による本市の主な被害 ■人的被害 負傷者9人。■建物被害 全壊9棟、半壊242棟、1部損壊18,298棟。

- 懐中電灯**
 できれば1人に1つ用意。予備の電池と電球も忘れずに。
- 携帯ラジオ**
 小型で軽く、AMとFMの両方を聞けるものがよい。予備の電池は多めに。
- 貴重品**
 現金・預・貯金通帳、印鑑、健康保険証など。



- その他**
 ヘルメット、マスク、上着・下着、タオル、軍手、紙の食器、ライター、缶切り、ビニール袋、ティッシュ、生理用品、紙おむつ、哺乳瓶、携帯トイレなど。
- 救急医療品**
 傷薬、ばんそうこう、解熱剤、風邪薬、目薬など。常備薬があれば忘れずに用意。
- 非常食・水**
 乾パンや缶詰など、火を通さずに食べられるもの。水はペットボトル入りが便利。乳幼児がいる場合は、粉ミルクも忘れずに。

最低限そろえておきたいもの(二次持出品)

避難するときに持ち出す最小限の必需品。すぐに取り出せる場所に保管することも大切です。

自治会に入ろう

隣近所で助け合える地域コミュニティ 自治会活動に参加しよう

自治会は、住民に最も身近なコミュニティ組織として、防災・防犯などの生活に密着した活動をはじめとしたさまざまな活動を行っています。詳しくは、25ページをご覧ください。
 ☎みんなでまちづくり課 ☎(632)2900、市自治会連合会事務局 ☎(632)2289

防災知識を身に付ける

わが家の防災マニュアル

では、実際に災害が発生した場合、具体的にどのような行動を取り、どこに避難すればいいのでしょうか。本市では、自然災害別の備え方や避難所、また非常持出品や備蓄品などを掲載した「わが家の防災マニュアル」を発行しています。各地域自治センター・地区市民センター・出張所などに置いてある他、市ホームページからも閲覧できます。詳しくは、危機管理課 ☎(632)2053へお問い合わせください。



防災力を高めよう 自助・共助・公助

災害が大きくなるほど、行政の救援・支援は届きにくくなります。そのような状況に陥ったとき、「自助」や「共助」は大きな力を発揮します。災害対策は「自助」「共助」「公助」の3者がそれぞれの立場に応じて対応し、連携することが理想です。

自助 自分で自分を助けること、自分の身を守るの
共助 近隣が集まって共に助け合うことで、個人では対応不能なことも可能になります。近所の皆さんとともに手を取り合うことで多くの困難も克服できるのではないのでしょうか。
公助 市をはじめ国や県、ライフライン各社など公共性の高い企業などによって、救助活動や支援物資の提供

危機意識を高く持ち 防災のための準備を

南海地震、東南海地震、南海地震は、いつ起きてもおかしくないといわれています。これらの地震は単独ではなく、同時に起こる可能性が高いといわれ、その被害は甚大で広範囲にわたると予想されています。また、近年、気候変動などの影響で、台風の大規模

や局地的集中豪雨(ゲリラ豪雨)、大雪、竜巻、噴火など、さまざまな自然災害が忍び寄っています。

「いつ災害が襲って来てもおかしくない」と常日ごろから物心ともに準備しておくことは自助力の向上にもつながります。次の災害が起こるまでに、防災についての知識を身に付けたり、備えをしていたりすれば、慌てず即座に正しく行動できます。

防災情報の入手方法



▲携帯サイト QRコード
 本市では、災害発生時、避難所の開設状況や、

- 防災情報メール配信**
 気象情報、指定河川氾濫注意報、土砂災害警戒情報などの気象情報。
- 登録方法** 市携帯サイト(右のQRコード)から登録してください。

◎災害後に備えるために(二次持出品) 復旧までの数日間、最低3日間は自活できるように準備しましょう

- 食品** 缶詰やレトルト食品、ドライフーズなど簡単調理で済むもの。チョコレートやあめ、梅干しなども。
- 水** 飲料水は大人1人当たり1日3リットルが目安。ペットボトルの他、ポリ容器に水をためておくと便利。
- 燃料** 卓上コンロや固形燃料、予備のガスボンベなど。
- その他** 毛布、寝袋、洗顔用具、ラップ、食器類、使い捨てカイロ、ロープ、工具類、マスク、トイレトペーパー、ドライシャンプーなど。